

# ノートゲルトに見る宗教改革

第16回

加藤 正宏

## \*ポリツヒ

ポリツヒは選帝侯フリードリヒ三世の個人医師で、ライプチヒ大学教授であった。ポリツヒは選帝侯によってウイッテンベルク大学の設立を任せられ、同大学の初代学長兼教授となった。ウイッテンベルク大学に学生を惹きつけるために、選帝侯は三年間の授業料の免除を発表し、さらに、ウイッテンベルクの学生と貴族の法的平等をイタリアの大学をモデルに約束したため、ヨーロッパ各地から学生がウイッテンベルクに集まった。一五〇八年には、ポリツヒはアウグスチヌスの若き修道士マル

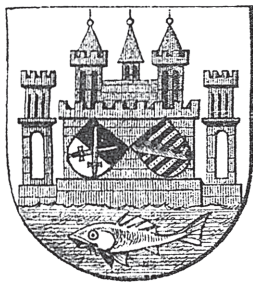


ポリツヒの肖像画

チン・ルターと知り合っている。彼はルターの才能を確信し、宗教改革出現の四年前に既にルターについて「修道士はすべての博士を怒らせ、新しい教義を適用して、ローマ教会全体を改革する。そしてイエスキリストの言葉に立脚する。」と言ったようだ。残念ながら、ポリツヒはこれを経験することもなく、一五一三年二月二十七日に亡くなっている。

## \*ウイッテンベルクの紋章

ウイッテンベルクの紋章は波立つ川と思われるところに大きな魚が泳



ウイッテンベルクの紋章

ぎ、その川辺に左右対称の円錐形の屋根の塔をもつ城塞が描かれている。城壁は互いに寄りかかっている。二つの盾で覆われ、この二つの盾が一緒にあってザクセンの紋章を形成している。ウイッテンベルクがザクセンの支配下にあったことを示している。



写真1 1922年 25ペニツヒ 記号M 表面

## ◆2、二五ペニツヒ 記号M

### ◇表面「写真1」

左に一五二〇年のルターの肖像と署名、右は前回（『収集』二〇二四年四月号）に掲載した、二五ペニツヒの表面と同じ。

### ◇裏面「写真2」



写真2 1922年 25ペニツヒ 記号M 裏面

下段に「一五二〇年二月一〇日、  
 ウイッテンベルクのエルスター門の  
 前でマルチン・ルター博士が教皇勅  
 書を燃やす。」との文字があり、そ  
 れを表す絵が描かれている。中央の  
 人物がルターであろう。絵柄の右は  
 前回掲載の二五ペニツヒ裏面と同じ  
 く額面とウイッテンベルクの紋章を  
 描く。

◆3、五〇ペニツヒ 記号L

◇表面「写真3」



写真3 1922年  
 50ペニツヒ 記号L 表面

左にカール五世の肖像と署名、右  
 は「写真1」に同じで、更に右に額  
 面数字の図案。

◇裏面「写真4」

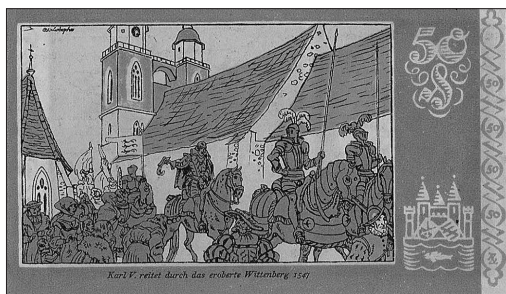


写真4 1922年  
 50ペニツヒ 記号L 裏面

下段に「カール五世一五四七年に  
 征服されたウイッテンベルクを駆け  
 抜ける。」との文字があり、それを  
 表す絵が描かれている。絵柄の右は  
 「写真2」に同じで、更に右に額面  
 数字の図案。

\*カール五世

カール五世（一五〇〇年）  
 一五八八年）は神聖ローマ帝国皇帝  
 として、宗教改革の激動期にドイツ  
 新教諸侯を抑圧した皇帝で、ウオル  
 ムスの国会（一五二一年、カール五  
 世が招集し、ルターの異端審問が行  
 われた国会）、シユマルカルデン戦

争（一五四六年〜四七年、シユマル  
 カルデン同盟を結んだ新教諸侯と帝  
 国都市がカール五世を中心とする旧  
 教軍と戦う）、アウグスブルクの宗  
 教和議（一五五五年、カール五世及  
 び旧教諸侯とルター派新教諸侯や帝  
 国都市との間に結ばれた和議。諸侯  
 や帝国都市に、旧教・ルター派新教  
 の選択の自由が認められた）と関わ  
 りを持つ。今回の絵柄はシユマルカ  
 ルデン戦争に勝利して、ウイッテン  
 ベルクを駆け抜けるカール五世の将  
 兵を描いたものであろう。ウイッテ  
 ンベルクの町教会が背景に描かれて  
 いる。

◆4、五〇ペニツヒ 記号U



ドイツ ケンプテン  
 1/4ターレル銀貨  
 カール5世  
 (1519 - 1556)

◇表面「写真5」  
 左にグスタフ・アドルフ二世の肖  
 像と署名、右は「写真3」に同じ。

◇裏面「写真6」

下段に「一六三二年、ウイッテン

ベルクの城教会のルターの墓で、グ  
 スタフ・アドルフ二世の遺体を配置  
 する。」との文字があり、それを表

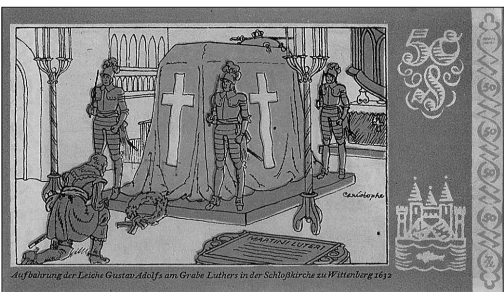


写真6 1922年  
 50ペニツヒ 記号U 裏面



写真5 1922年  
 50ペニツヒ 記号U 表面